

# 35 北海道大学

Hokkaido University

## 北海道大学フォーミュラチーム

Formula-SAE HOKKAIDO Team

<http://www.fht-hokudai.com/contents/main.htm>

## 悔しさが色濃く残った13回大会 次年度への奮起を誓う



### 今回の総合結果・部門賞

●総合61位

### Profile チーム紹介・今までの活動

北海道大学フォーミュラチームは2006年に発足し、第5回大会から参戦し、今年度で9回目の参加となります。構成しているメンバーは15名。学生が主体となって活動を行っており、日本大会で総合優勝することを最終目標として活動しております。

### Team-member チームメンバー

#### 長田 大輝 (CP)

近久 武美 (FA)、小川 英之 (FA)、  
田部 豊 (FA)、柴田 元 (FA)  
近藤 光彦、黒田 啓介、西岡 文弥、久々津 諒平、  
近藤 俊朗、齋藤 誠司、木下 竜馬、佐々木 久義、  
貝沼 拓哉、今佑 宇真、今井 拓哉、井口 直輝、  
伊藤 祐太、伊藤 和弥

## Presentation

### プレゼンテーション

私たちはこの1年間、総合10位以内を目標にマシン設計・製作やドライバートレーニング、チームマネジメントに励んで参りましたが、大会結果は総合61位と、目標には遠くおよびない結果となってしまいました。

この大きな原因は、車検をすべて通過する事ができず、動的審査に出走する事ができなかったからです。チームの主要メンバーは学部1、2年生であり、年間を通してやらないといけないことをすべて把握できていないままマシン製作を行っていたので、大事な部分を見落としたままマシンの製作を進めてしまいました。そして、しっかりとスケジュールの下で、マシンを設計し製作することができなかったため、当初立てたマシン完成予定の日程から3ヶ月も遅れてしまいました。マシンの完成が遅れてしまったのも、チームマネジメントがうまくできなかったのが一番の原因と考えています。

今年度は、年間を通して自分たちの活動に対する意識の甘さが露呈してしまいました。しかし、同時に日程管理の重要性・引き継ぎ体制の強化等、多くのことを身を持って学ぶことができました。今大会での悔しさを必ず来年度に生かして行くつもりです。2016年度大会に向けてまた一から頑張っていきます。

## Participation report

### 参戦レポート

今年度車両の設計コンセプトは「低中速コーナリングスピードの向上」としました。日本大会の動的審査における周回コースの特徴に注目した結果、各コーナーにおける平均車速を上げることで、全体のラップタイム短縮を図ることを目的としました。

シャシーコンセプトは「コーナリングスピードの向上」と設定しました。これを達成するためにシャシーの設計では、

1. 旋回時のコンプライアンス設計
2. 解析結果に基づくフィードバック
3. 可能な範囲での軽量化

を実施し、スキッドパッド時の旋回加速度1.5G達成を数値目標としました。

パワートレインコンセプトは「コーナリング時のスロットルレスポンスの向上およびコーナー脱出時の加速性能の向上」としました。リストラクターによってエンジン回転数11000rpm付近において吸気量が不足するため、リストラクターの影響を受けない回転域においてパワーとトルクの落ち込みを少なくするようパワーバンドを設定し、常用回転域を7500~10000rpmと設定しました。これを踏まえて最大トルクを8000rpmで発生させることを目標としました。

## Sponsors スポンサーリスト

IDAJ、本田技研工業、ホクアイ・ベッツ、樺葉鉄工所、  
NTN、TBK、ゲイナー、ソリッドワークスジャパン、テック  
ワークス、イーエスケオー、AIS北海道、ミネベア、  
トヨタレンタリース札幌、BUG森精機、ソーダファクトリー、  
ゼット・エフ・ジャパン、十勝スピードウェイ、レーザーマッ  
クス北海道、北海道大学工学部機械知能工学科、工  
学系ワークショップ、北工会、FHT OB会 他37社

**Team-Movie** <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/13th/movie/35.html>